

指定討論

南風原朝和

「大学入学共通テストの研究」のいろいろ

① 受験生をあずかる高校・予備校による研究

出題内容の傾向を検討し，次年度の出題内容を予測

② テストを作成する大学入試センターによる研究

「問題作成方針」に沿った適切な出題がなされたかを評価し改善

「問題作成方針」そのものを定めるための研究

③ 教育社会学者／教育行政学者による研究

改革の理念の妥当性／政策決定のメカニズム

④ 教科の専門家による研究

出題内容の変化とその妥当性

本日のシンポジウム

改革の理念について（中村高康氏）

「学力の三要素」の一気通貫の気味悪さには同感

特に，主体的であるべき大学のアドミッション・ポリシーがコピー＆ペーストの様相を呈しているのは，もはや病的

一方，東京大学のアドミッション・ポリシーは・・・

「入学試験の基本方針」（東京大学）

第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。

第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各類の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各類の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科類の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。

第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

⇒ 「思考力・判断力・表現力」などの定型表現は無し

改革の理念について（中村高康氏）

【質問】

1. 「一気通貫」が生まれるメカニズムは？ 「一気通貫」から解放されることは可能か？
2. とらえどころのない「思考力・判断力・表現力」の重視は、問題作成者にとっても、受験者にとっても、指導者にとっても「つらい」入試となる。学習指導要領の定め方などで、これが改善される見通しは？

政策決定のメカニズムについて（中村恵佑氏）

教育行政学の視点や役割についての明確な説明

大局的で新鮮

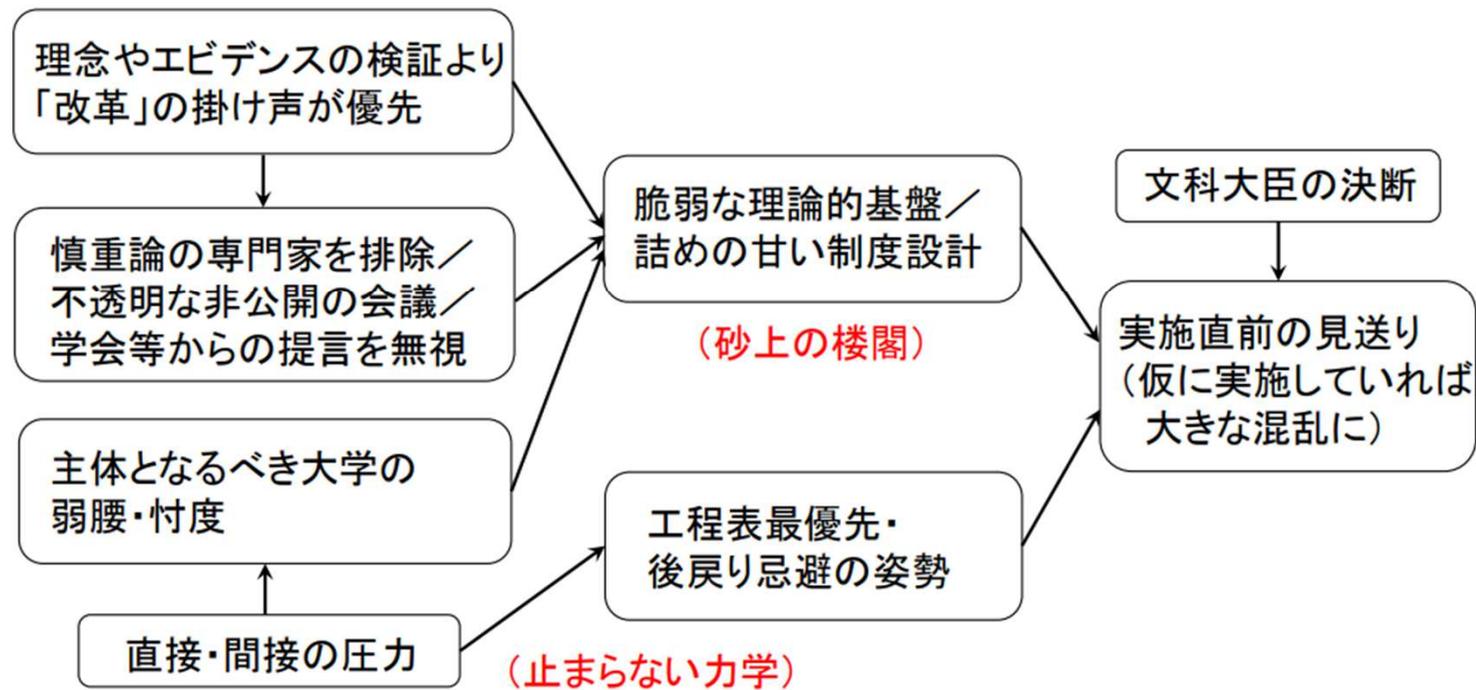
「拒否権プレイヤー論」も明快で強力

私なりのプロセス理解

(「大学入試のあり方に関する検討会議」ヒアリング提出資料

https://www.mext.go.jp/content/20200513-mxt_daigakuc02-000007071_6.pdf)

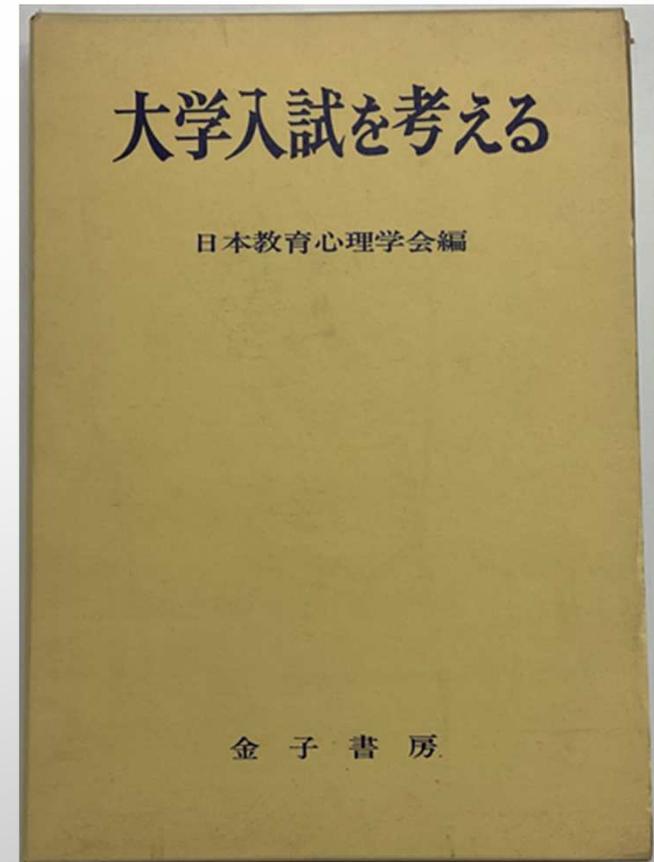
「大学入試改革」の顛末



共通一次のときの拒否権プレイヤー？

「文部省大学入試改善会議，国立大学協会入試調査特別委員会，大学基準協会大学入試制度改革研究委員会，日本私立大学協会，全国高等学校長協会，日本教職員組合教文局などのご協力によって，わが国では初めてともいふべき合同シンポジウムをもつことができた」

（日本教育心理学会編『大学入試を考える』，金子書房，1974年1月発行）



政策決定のメカニズムについて（中村恵佑氏）

【質問】

1. 大学入学共通テストにおける拒否権プレイヤーとして挙げられたプレイヤー（国立大学，公立大学，私立大学，高校など）は，実際に拒否権を持っているか？（同意が必要なアクターであるか？） 同意なしに強行されることもあるのではないか？
2. 政策決定過程において，学術研究者や学会等はどのように位置づけられるか？

英語問題の出題の変化について（秦野進一氏）

問題作成部会の見解：

「日常生活において、ペーパーバックや新聞，ウェブなどの情報を楽しんで読むとなると，一定のスピードが必要」

⇒ 大学で必要なのは論文などを「じっくり正確に批判的に読むこと」では？

大学入学共通テストの導入に際して削除された問題形式（語句整序等）が測っているものについての実証的研究は重要

語句整序問題等はこうやって無くなった

平成29年度英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第1回，2017（平成29）年9月7日）議事録より

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/134/gijiroku/1397076.htm

【安河内委員】さらに現在の大学入試センター試験には間接測定という領域、いわゆる1番から3番までのスピーキング・ライティングを間接的に測定しようとする**整序問題、文法問題、発音問題**があります。これが、よく問題になるように悪いウォッシュバックを起こしている。これをそのまま2020年度以降も残してしまうのか。

【大杉審議役】入試センターで作問担当の大杉と申します。（中略）本年度2月に英語のプレテストを実施させていただく予定ですが、ここで今も作問の先生方、**安河内委員が御指摘いただいた内容を踏まえて作問の改善を議論しております**ので、2月のプレテストにおいて全国の高校でその具体的なものを実施させていただく。

英語問題の出題についての公開質問

「平成30年6月18日発表「大学入学共通テスト」における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について」についての公開質問

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~haebara/Ask DNC 20180619.pdf>

大学入試センターからの回答

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~haebara/Reply from DNC 20180626.pdf>

大学入試センターへの意見

「出題内容を狭める理由がまったく分かりません。」

<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~haebara/Opinion to DNC 20180627.pdf>

英語問題の出題の変化について（秦野進一氏）

【質問】

大学入学共通テストの出題方針に関する拒否権プレイヤー（同意が必要なアクター）は誰（どの集団）であるべきと考えるか？

物理問題の出題の変化について（加藤徳善氏）

共通テストが「授業改善のメッセージ性も考慮」すること等によって、問題文が無駄に長くなり、その分、深く思考する時間を奪っているとの指摘は重要

「処理能力を測る問題となっている」との指摘については、心理学において「思考＝情報処理」という見方もあることから、情報処理であること自体が問題ではなく、「**高速表層処理**」を求めていることが問題と言うべきか

令和6年度の変化は要注目

大学入試センターによる「問題作成方針」の変化

令和6年度

「知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」

令和7年度

「深い理解を伴った知識の質を問う問題や，知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」

⇒ 「知識＝暗記・再生」という，高大接続改革を主導してきた古い知識観の変容に資するか

大学入試センターによる「問題作成方針」の変化

令和6年度

「高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮」

令和7年度

上記の内容は無し

⇒ 入試は教育を変えるための手段ではなく、選抜評価のための道具であるという基本に戻るか

物理問題の出題の変化について（加藤徳善氏）

【質問】

大学入学共通テストの出題方針に関する拒否権プレイヤー（同意が必要なアクター）は誰（どの集団）であるべきと考えるか？